

校内研究便り No.10

令和5年11月13日(月)
昭島市立玉川小学校
研究推進委員会

1 研究授業ありがとうございました

11月8日(水)、今学期最後の研究授業が行われました。授業者のN先生をはじめ、低学年分科会の先生方は、指導案検討に加え、お店の訪問など夏休みから準備を重ねてくださいました。

協議会は、2月の研究発表を想定してオンラインで試行しました。初めての取組だったので不手際もありましたが、臨機応変に対応してくださいありがとうございました。実際に行うことで改善点も明確になりました。三つの分科会の研究授業の成果と課題も踏まえ、研究発表を来場者も私たちにとっても実りのあるものにしていきたいです。



2 研究協議会より

- A ・グループ分けの仕方が良かった。◎
 - ・話し合いをさせる前に、視点を付け足すと良い。写真、台本(考えの可視化)があると話し合いが止まらなかった。△
 - ・「人」「もの」「仕事」三観点だったが、写真だけだと「もの」についての紹介が多いと感じた。
- B ・意欲…単元のゴールイメージが付きやすい。◎
 - ・関わり合い…国語の話すという観点ではないので、中休みのようなフラットな会話で良かった。◎
 - ・可視化…写真での振り返りがしやすかった。◎2回目の見学を想定したのであれば達成できていたと思う。
- C ・ペア、グループ分けが良い。◎
 - ・話を聞かないで勝手にタブレットを触っている児童がいた。ルールを徹底させると良い。
 - ・写真を示しながらの発表が効果的。◎
 - ・「人」「もの」「仕事」三観点で振り返られると、2回目のインタビューにつながりやすい。
 - ・発表モデルの動画を流すと良い。(三観点をおさえながら)



3 指導講評

① 教育委員会 指導主事 より

- ・研究主題、関わり合いという視点で行われた。本時では合計4回関わり合いの時間があつた。
- ・「関わりたい気持ち」「関わる必然性」「関わる時間の確保」「関わる方法」が大切。三つ目までは十分だった。◎
- ・振り返りの時間◎、机間指導◎、グループの決め方◎
- ・児童の自己評価や相互評価も良い。自分と違う視点で評価してもらう。(否定的なことは書かないなどルールが必要)
- ・具体的にどう関わるか、効果的なICT機器の活用について考えていけるとより研究を深められる。

② 講師 明星大学准教授 今野 貴之先生 より

- ・繰り返し子供たちが発表するということが練られていて興味深かった。
- ・本時の目的の説明や前時までの振り返りが良かった。◎
 - 先生が全部説明してしまっていたので、子供から出させた方が更に良かった。△

- ・35秒で端末準備完了。端末操作を確認し合う教え合いの姿も見られた。◎ →慣れていないとできないこと。
- ・1回目の紹介タイムではタブレットを自分の方に向けて話す児童もいたが、2回目ではタブレットを友達に見せることができていた。それができたのも、4回発表することで工夫をすることができたから。◎
- ・写真は見せたいものを中心に見やすく撮影できていた。◎ 社会科見学にもつながっていく。
- ・写真についての説明が単語になっていることが多かった。△
- ・発表の見本(話型)を見せるのも大事だが、必要かどうか。国語ではどうか。
 - N先生:話型は型にはめすぎている気がする。国語ではまだ発表の仕方の指導まではできていない。
- ・いろいろな言葉に触れさせると良い。例えば、NHK for SCHOOLの「LL(えるえる)」、「お伝^{つた}と伝^{てん}じろう」等、表現に関する番組を見せるだけで、発表の内容を単語だけにさせない手だてとなる。
- ・N先生の「タブレットをもっと使いたい人は先生に相談してください」(14:03)という発言が良い。◎
 - 学級内でどんどんルールを作って、ICT機器に触れる機会を増やしてほしい。
- ・上手く言葉では話せない児童が、ワークシートに書かせるとすらすらと書けていた。書くことで紹介できる特性のある子もいる。そこを評価してあげると自己有用感をもたせることができる。挙手して発表する子ばかりが評価される時代になってしまっているからこそ、書ける子を評価してあげてほしい。
- ・振り返りシートをなぜ最後に使ったのか。
 - N先生:今日のめあてを自身で振り返らせる、そして2回目のインタビューに向けて書き留めさせておきたかった。
- ・ワークシートを先に配っておくことで、今日の授業のゴールが分かりやすくなる。見通しをもたせることができる。
- ・ワークシートを単語で書いている子がいた。もう一つ条件をつけ足してもよかった。「2個書きましょう」等。条件をつけることで、いっぱいある情報の中から何が大切かと精査させる(質を向上させる)ことができる。
- ・2回目の紹介タイム前に、「話す人」「聞く人」の視点をもう一度おさえたかった。板書に目を向けさせるだけでも良い。

4 N先生の授業から、日々の授業で見習いたいこと

- **「今日は何をするんだっけ？」子供に語らせながら進める短時間の導入**
 - ・教師が一方向的に伝えるのではなく、児童の発言を引き出しながら内容やめあてを確認する。
 - ・集中して聞ける時間は数分間。5分後には活動がスタートできるように、発問を厳選する。
- **タブレットの扱いを含めた授業規律**
 - ・教科書や筆記用具と同様にタブレットを使いこなせるように、使わせながら約束を確認していく。
 - ・話を聞く時は、手を止めて、タブレットを閉じて、目を向けて聞く習慣を日々繰り返し指導する。
- **スムーズに関わり合える配置の工夫**
 - ・同じお店グループを縦に着席させるなど配置を工夫し、関わり合いの時間を確保する。
- **関わり合いを繰り返す中で生まれる気付き**
 - ・伝える相手を変えながら、繰り返し紹介することで、伝え方や聞き方が上達していた。
 - ・友達に質問されて答えられなかった子が、「2回目お店に行ったら聞かなくちゃ」とメモしていた。2回のお店見学の間に、友達への紹介タイム(本時)を設定した単元計画が効果的だった。

5 今後の予定

- | | |
|-----------|--|
| 11月16日(木) | 分科会内指導案の文言確認締め切り(隣の学年をチェックして授業者に渡す) |
| 11月17日(金) | 15:15~16:15 今野先生とオンラインミーティング 於)会議室
※2月の授業について相談したい方はお知らせください。 |
| 11月17日(金) | 2月の指導案起案締め切り |
| 11月下旬 | 分科会提案パワーポイント完成 |
| 12月11日(月) | 廊下の掲示物(児童作品)起案 |
| 〃 | 当日配布物指導課起案 |
| 1月5日(金) | 発表リハーサル①
配布物についての指導課の返答⇒修正 |



10月30日の研究写真保存締め切りを過ぎました。まだの方は17日(金)までにお問い合わせします! 回覧フォルダに入口があります。